

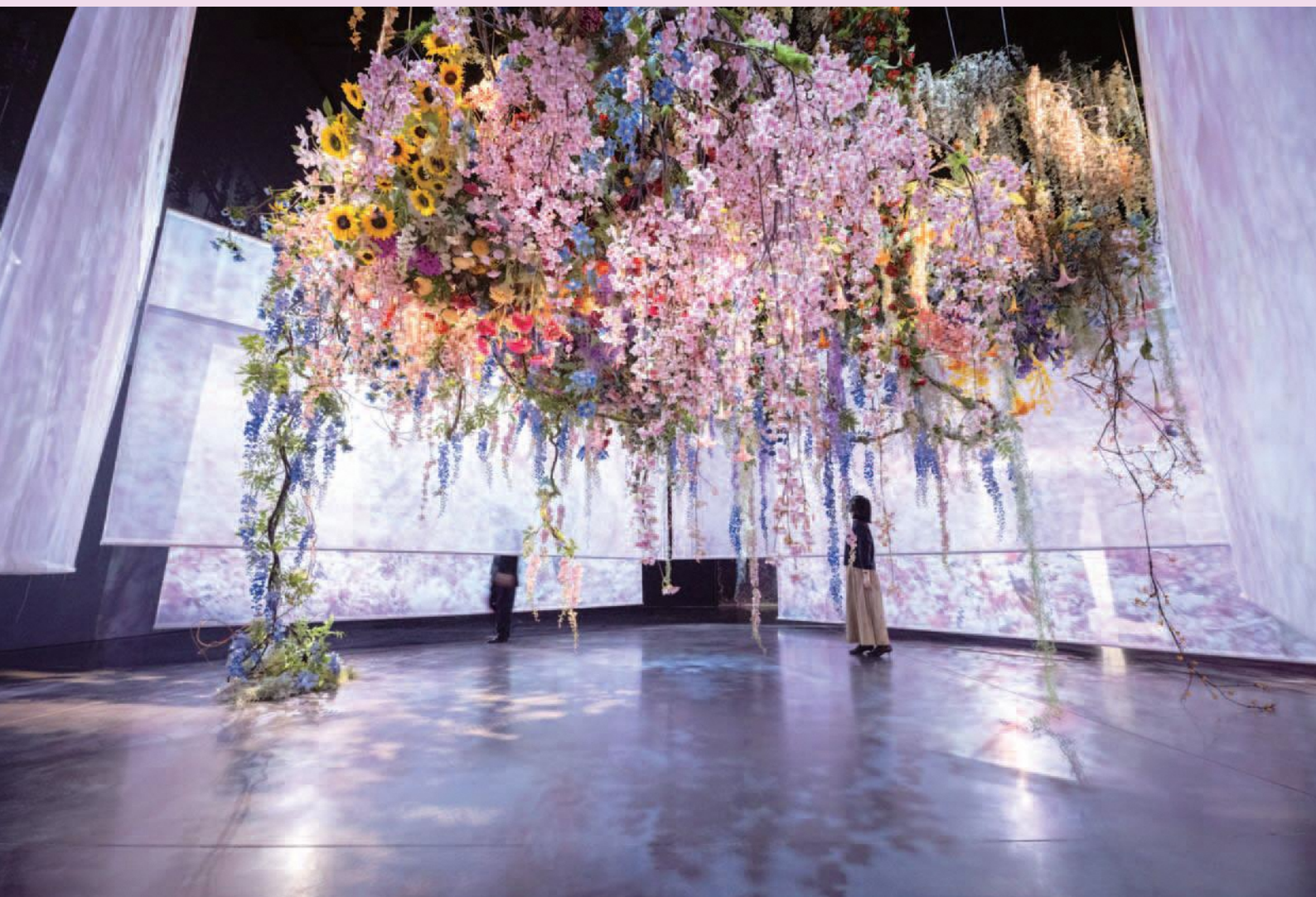
弘前 れんが倉庫 通信

弘前れんが倉庫美術館を
もっと知るフリーペーパー

Hirosaki
MOCA
Letter

vol.10

TAKE FREE



蜷川実花 with EiM《Sanctuary of Blossoms》2024年
撮影：小山田邦哉

活動レポート：2024年度をふり返る

2024年度は、当館を含む青森県内にある5つの美術館・アートセンターが連携して開催した「AOMORI GOKAN アートフェス 2024」のメイン企画として、4月6日から9月1日まで、「蜷川実花展 with EiM：儚くも煌めく境界 Where Humanity Meets Nature」、「弘前エクステンジ#06『白神観見考』」を開催しました。また、9月27日から2025年3月9日まで、「タグチアートコレクション×弘前れんが倉庫美術館 どうやってこの世界に生まれてきたの？」を開催。ワークショップや音楽ライブ等、多彩なプログラムを展開し、たくさんの来場者を迎えました。

活動レポート | 2024 年度をふり返る

2024 年度に開催した企画展、地域の創造的な魅力の再発見を目指す「弘前エクステンジ」など、1 年間の活動を紹介します。

展覧会

AOMORI GOKAN アートフェス 2024「つらなりのはらっぱ」メイン企画
蜷川実花展 with EiM：^{はかな}くも^{きら}煌めく境界
NINAGAWA Mika with EiM：Where Humanity Meets Nature
2024.4.6-9.1 131日間

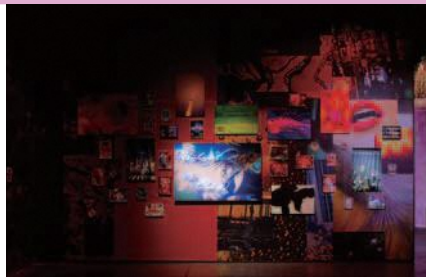
写真家・映画監督の蜷川実花とクリエイティブチーム・EiMの協働による個展を開催。弘前で撮影された桜をはじめ、日本各地の美しい花々を捉えた作品を展示しました。吹き抜けの展示室に現れた大規模なインスタレーション《Sanctuary of Blossoms》では、春夏秋冬の造花が時間に応じて変化する光に照らし出され、映像に写る現実の花との対比を生み出しました。会期中は、作家によるオープニングトークをはじめ、蜷川実花監督作の映画『さくらん』上映会を開催しました。



「弘前の春」より 撮影：木奥恵三
3点の画像はすべて ©mika ninagawa, Courtesy of Tomio Koyama Gallery



蜷川実花 with EiM《Sanctuary of Blossoms》2024年 ©Lucky Star Co.,Ltd



「Liberation」より
撮影：木奥恵三

企画展

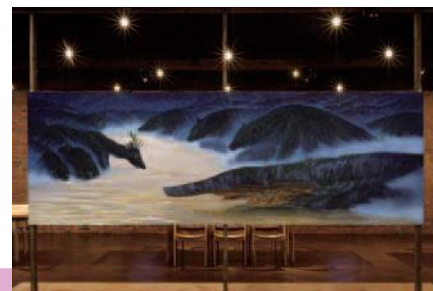
AOMORI GOKAN アートフェス 2024「つらなりのはらっぱ」メイン企画
弘前エクステンジ#06「白神視見考」
2024.4.6-9.1 131日間

白神山地をテーマに、4組の作家がそれぞれの視点で作品を展示。狩野哲郎は白神山地が世界自然遺産となったことで人や動物に生じた変化を作品化し、佐藤朋子は、リサーチの過程を公開し、来場者と共に考察を深める場を作りました。自らの狩猟体験をもとにした作品を発表する永沢碧衣は、ダム湖に沈んだ山村の風景取材した絵画を展示。自然と人間の関わりを問い直す、新たな視点を示す展覧会となりました。

参加作家：狩野哲郎、佐藤朋子、永沢碧衣、L PACK.
会場：弘前れんが倉庫美術館、cafe & shop BRICK、HIROSAKI ORANDO、ギャラリーまんなか



佐藤朋子 リサーチプロジェクト「向こう側研究会」
撮影：木奥恵三



永沢碧衣《山懐を満たす》2024年
撮影：木奥恵三

イベント

AOMORI GOKAN アートフェス 2024 共通企画
栗林隆《元気炉》「Aomori GENKI-RO Trip」

2024.8.28-9.1 展示期間
2024.8.30-9.1 作品体験

《元気炉》は、内部空間に薬草の香りを帯びた蒸気を充満させて、観客が全身で蒸気を浴びて元気になるという趣旨の作品です。地元音楽家と辰田翔、茂呂剛伸によるライブ演奏や志津野雷、岩根愛による映像上映も開催。「白神視見考」の参加作家L PACK.による屋台の形をした作品《いっしょくたにへば たげめくなるはんで》もあわせて発表。青森の文化や人々との交流を重ね、弘前にてアートフェスのフィナーレを飾りました。



栗林隆《元気炉》、辰田翔と茂呂剛伸による演奏
撮影：成田写真事務所



弘前市役所ねぶた囃子方による演奏
撮影：小山田邦哉

展覧会

タグチアートコレクション×弘前れんが倉庫美術館
どうやってこの世界に生まれてきたの？
How Did You Come into the World?
2024.9.27-2025.3.9 135日間

本展は、タグチアートコレクションと弘前れんが倉庫美術館の所蔵作品を通して、「生きること」と「幸せ」について考えようとする展覧会です。塩田千春の映像作品《どうやってこの世にやってきたの?》をはじめ、世界各地で活躍するアーティストたちの多様な作品が並びました。弘前市内にあるマクドナルドの店舗では、高山明 / Port Bによるアートプロジェクト《マクドナルドラジオ大学》を実施。作家たちのさまざまな表現を通して、訪れた方々が日常の中に新たな視点を見つけられるような展示を目指しました。



アーティストトーク：
「正しい身体」のその先にあるもの
(左から、木村絵理子、片山真理、田口美和)
撮影：成田写真事務所



ベトリット・ハリライ《チキンの仲間》の制作はボランティアが協力

出品作家：
カミュー・アンロ、尹秀珍、AES+F、トレイシー・エミン、オスジェメオス、ジャック・オリヴィエ、ミリアム・カーン、片山真理、マウリツィオ・カテルン、加藤泉、金氏徹平、モリー・ギャレス、キュンチョメ、ゲド・クイン、草間彌生、トゥアン・アンドリュウ・グエン、オスカー・グッタイル、工藤麻紀子、鴻池朋子、トマス・サラセーノ、塩田千春、スーパーフレックス、杉戸洋、高田冬彦、高橋喜代史、高山明 / Port B、ジャナイナ・チェッペ、千葉正也、ヴァジコ・チャッキアーニ、セバスチャン・ディアズ・モラレス、奈良美智、西村有、ベトリット・ハリライ、ウラ・フォン・ブランデンブルク、藤倉麻子、キーガン・マクハギュー、アド・ミノリーティ、ヤン・ヘギュー、ガブリエル・リコ、ビビロッチ・リスト、ゴセット・ルボンド、ミカ・ロッテンバーグ、渡辺豪、和田礼治郎

〔上映プログラム〕
ハンス・オブ・デ・ビーク、インカ・ショニパレCBE、ムン・キョンウォン&チョン・ジュンホ、山城知佳子

ウラ・フォン・ブランデンブルク《風景》2014年 左：加藤泉《無題》2010年
いずれもタグチアートコレクション/タグチ現代芸術基金蔵 撮影：木奥恵三

ラーニング

ワークショップ・鑑賞サポート

展覧会と連動して、さまざまなラーニングプログラムを開催しました。子どもから大人まで、アートを身近に感じ、展覧会をより楽しんでいただくため、創造力を刺激するワークショップや、鑑賞サポートツールの配布などを行いました。参加者が各種プログラムを通じて、新たな発見や交流を楽しむことを目指しました。



プレイフルワークショップ
「コミュかん ～展覧会をみて・話して・共有するコミュニケーション×鑑賞の時間～」
2024年11月9日 講師：太田歩（演劇ユニット 一揆の星）
展覧会「どうやってこの世界に生まれてきたの?」の関連プログラム。「展覧会に新たな彫刻作品を展示するとしてら...」をテーマに身体で表現し、お互い発表しました。



対話による鑑賞×哲学対話
「永井玲衣さんと、生きることと幸せについて考えよう」
2025年1月13日 講師：永井玲衣（哲学者）
展覧会「どうやってこの世界に生まれてきたの?」をグループに分かれて話しながら鑑賞。全員で輪になり「問い」を出し合い、哲学対話を行いました。



鑑賞サポートツール
「GOKANファイルブック」
撮影：小山田邦哉

「AOMORI GOKANアートフェス」のラーニングプログラムとして小学校4～6年生を対象とした鑑賞サポートツール「GOKANファイルブック」を制作。美術館での過ごし方や楽しみ方を紹介する小冊子と、感じたことを書き込める鑑賞シートを配布しました。

H-MOCAライブ その他

音楽ライブや映画上映会をはじめ、さまざまなイベントを展開する「H-MOCAライブ」。6月に行われた音楽ライブには、シークレットゲストとして奈良美智さんが登場し、特別なライブドローイングが行われました。また、シソンヌのじろうさんと子どもたちが一緒に台本を読む人気ワークショップ「じろうさんとあそぼう！」も開催され、会場は笑顔でいっぱいになりました。そのほか、当館ボランティアの「れんが倉庫部」が建物の歴史や見どころを紹介する建築ガイドツアーを開催しました。



1



2



3



4



5

1. Herbert Hunger a.k.a 曾我大穂
弘前公演
2024年5月5日・6日
2. 細海魚×ヤマジカズヒデLIVE
“A night OWL like a FISH”
2024年6月15日
3. Shuta Hasunuma “unpeople 360°
+ 1 people #13”
(主催：windandwindow)
2024年8月31日

4. もうすぐ春だよ じろうさんとあそぼう! 2025
講師：じろう（シソンヌ）
2025年3月2日

5. 「れんが倉庫部」による建築ガイドツアー
2024年11月16日

| Archive | アーカイブ

過去に開催されたアーティストトークなどの記録動画をYoutubeで公開しています。また、一部の展覧会は3DVRを美術館ウェブサイトからご覧いただけます。

アーティストトーク



「蜷川実花展 with EiM：僕くも煌めく境界」
関連プログラム
オープニングトーク
2024年4月6日
出演：蜷川実花
聞き手：木村絵理子



アーティストトーク

「正しい身体」のその先にあるもの
2024年9月28日
出演：片山真理、田口美和
聞き手：木村絵理子



アーティストトーク



「タグチアートコレクション×弘前れんが倉庫美術館 どうやってこの世界に生まれてきたの？」関連プログラム
クロージングトーク
2025年3月9日
出演：金氏徹平
聞き手：木村絵理子



その他のトークアーカイブ
Youtube



3DVR

公開中の3DVRはこちら (note)



| Information | メンバーシップのご案内

「H-MOCAメンバーズ」に入会して会員限定イベントに参加しませんか？

メンバーになると、展覧会開幕の際にひらかれる美術館カフェでのレセプションのほか、学芸スタッフが展覧会をじっくり解説する特別鑑賞ナイトツアーなど、会員限定のイベントに参加できます。アートをより身近に感じ、特別な体験ができる「H-MOCAメンバーズ」への入会、お待ちしております！



弘前れんが倉庫美術館

【開館時間】9：00～17：00 ※但し、金曜日・土曜日に限りスタジオ、ライブラリーのみ21：00まで開館

【休館日】火曜日（祝日の場合は翌日に振替）、年末年始

〒036-8188 青森県弘前市吉野町2-1 【TEL】0172-32-8950 【Mail】info@hirosaki-moca.jp

当館には駐車場はありません ※お車でお越しの際は近隣の有料駐車場をご利用ください

【デザイン】デザイン工房エスパス 【印刷】凸版メディア株式会社

【編集・発行】弘前れんが倉庫美術館（指定管理者 運営業務担当 エヌ・アンド・エー株式会社）

【発行日】2025年3月31日

弘前れんが倉庫美術館 公式ウェブサイト

弘前れんが倉庫美術館 公式SNS



弘前
れんが倉庫
美術館

HIROSAKI
MUSEUM
OF
CONTEMPORARY
ART